



柏木 幸平議員

旧三町が合併までに、それぞれの特色ある町づくりに取り組んでこられ、そのなかで各町の施策により、三町同じような施設と各町単独の補助事業が進められてきました。

新町では、これら施設と各事業の見直し、また、生活・自然環境の整備を願います。そして、町民が行政依存だけでなく、地域においても、自立・共生できる支援体制をつくり、生きがいと活力に満ちた「さつま町」にしたい。さらに、農業・商工業の振興と、子供の教育から高齢者の福祉まで、安心・安全な住みよい魅力ある「さつま町」の充実を願います。



内之倉成功議員

新「さつま町」の誕生にあたり、すべての町民がよかったと言えるよう、皆が理解しあうことが必要かと思えます。特に、町域が広がるので、市街地だけでなく、隅々まで行き届く行政を願う一人でありたい。

特に、「どこに住もうと公平な行政サービスを行う」、「農林業、商工業、公共事業は、均衡の取れた政策を行うこと」、「少子・高齢化社会での政策を考える」、「障害者、高齢者等福祉政策について」の四点を町民すべてが話し合い、譲り合っていくことで、立派な「さつま町」が生まれ、よかったですと言えるのではないかと思います。



久保 克己議員

三月二十二日、二万七千人の「さつま町」がめでたく誕生します。

意義深いものを感じさせられます。道路交通網の発達と情報化の進展で生活圏が広がり、そこに住む人々にとつては、細かく分けられた市町村という垣根は、あまり意味は持たなくなってきました。

合併により、住民サービスも一層向上した、きめ細かな町政運営、町民に夢と希望の持てる素晴らしいまちづくりに向けて、推進していただきたいと思えます。

町民共通の願いである、合併して良かったと言える「さつま町」を期待いたします。



山崎 文久議員

多くの課題が山積するなか、刻一刻と合併の期日が迫っている。

「合併して良かった」という努力目標は当然のことだが、この合併を機に、「地方の時代」にふさわしい自立・自興の施策を構築しなければならぬ。

輝かしい未来ではないけれども、せめて、自分たちの未来は、自分たちの手で、知恵で、努力で築き上げられることの意味は大きい。

今こそ、町民一丸となつて知恵を出し、汗をかき、子々孫々に誇れる「さつま町」にしたいものだ。



別府 静春議員

二十一世紀に誇れる新生「さつま町」の創造のために、構成する各地域の連携を早期に確立し、均衡ある発展を図りながら、活力ある商工業・農林水産業・観光などの産業分野を創出し、生活圏と一体となったコミュニティバスの広域的な運行を図り、若者とお年寄りが織りなす、福祉・医療・教育・文化・伝統のまちづくりを、住民と行政が協働し、一〇年・二〇年後に住んでいることが、誇りに思える中核都市としての機能を備えた「さつま町」として、皆さんに愛され、子々孫々まで繁栄し続けていくことを期待します。